

Tachyon

[タキオン]



なかにし礼氏によって作詩された公立小松大学校歌のタイトルは「光より速きわれら」。ときに光速をも超える思念やインスピレーションが本学学生・職員の spirit から発せられるよう念願し、本誌のタイトルとして選んだのが「タキオン」(Tachyon) である。Tachyon は、未だ確認されていない粒子であるが、光より速い速度をもつとされ、ギリシャ語の「ταχύς (速い)」を語源とする。

学長 山本 博

(図出典: Institut for teoretisk Fysik)

We Enjoy
Campus Life

茶道サークル
(紹介は、裏表紙)



01 第1回青松祭・開学記念フォーラム

03 大学TOPICS

05 教員紹介 佐藤 大介 看護学科准教授

06 カンボジアインターンシップ報告

07 サークルPick Up 茶道サークル

vol.2

2019.02

青松祭実行委員メッセージ

地域の皆さんにもご協力いただき、
自分たちの手で学祭を作り上げることが
できました！

準備段階から、地域の方々には
様々な場面でお力をお借りし、また、
当日は悪天候にもかかわらず
多くの方にご来場頂き、本当にあり
がとうございました。今回の青
松祭のテーマは「未来、ここから」。
第1回青松祭の成功によって、私
たちの未来は創られ始めました。
実行委員会だけでは学祭を成功さ
せることは不可能だったと思いま
す。青松祭に携わってくださった
全ての方に感謝したいです。



開学記念フォーラム 「宇宙・地球・ひと」

10月28日(日)
サイエンスヒルズこまつ3Dスタジオ

本学客員教授の土井隆雄さん(宇宙飛行士)と寺門和夫さん(科学ジャーナリスト)、クリエイティブ・フェローの黒本和憲さん(コマツ顧問)を招き、開学記念フォーラムを開催しました(共催：公立小松大学を支える会)。

土井さんは、実際の船外活動の動画を交えながら、宇宙での生活や研究開発の現状などを紹介。宇宙で感じた地球のすばらしさに触れ「宇宙を目指せ」というメッセージが伝えられました。また黒本さんは、第4次産業革命といわれるIoTの現状と、コマツが進める建設機械の無人化・自動化、建設現場で起きている変革などについて紹介。今後、AIによって全ての産業が再定義される、と解説しました。

その後、木村副学長、山本学長がそれぞれ、地熱エネルギー、生物進化について発表。モデレーターを務めた寺門さんが、いずれの分野も今後さらなる発展を遂げる分野であり、学生らにとっても将来を考えるきっかけや今後の学びの指針となった、と総評しました。



同時開催



たこ焼き、唐揚げ、豚汁、タピオカジュース、ポップコーンなど、バラエティーに富んだ模擬店。最初は少し緊張していましたが、コツを掴んで、接客もどんどん上手に。



看護学科
[Nurse Cafe]



ミスターコンテスト・ミスコンテストの優勝は、
平野翔太さん(生産システム科学科)、
齋藤七海さん(看護学科)。



臨床工学科「VS 臨工」
チーム戦で3つのゲームに挑戦。
時間によっては列ができるほど。



屋外の特設ステージは、
吹奏楽サークルや軽音サークル、
ダンスサークルの発表で
盛り上がりしました。

生産システム科学科
「緑日」
輪ゴムピストルの射的や、
ダーツは家族連れにも
大人気。



青松祭

第1回

2018年10月27日(土)・28日(日)
中央キャンパス、こまつ芸術劇場うらら

実行委員を中心に、学生たち自らの力で企画・実施した初の大学祭「青松祭」。
模擬店やステージ、各学科別のブースなど、ゼロから作り上げた大学祭の様子
をご紹介します。



トークショーのゲストは、
千原せいじさん
27日(土) こまつ芸術劇場うらら大ホール

千原せいじさんと
チャンス大城さん

海外での体験を踏まえた軽快なトークに、約500人もの来場者で埋め尽くされた会場は大いに沸きました。地元出身のぶぶんボールさんのステージ、学生からの質問コーナーや抽選会なども行われました。



オープニングは、
サイリウムダンスサークルによる
パフォーマンス



国際文化交流学科
「お化け屋敷」

本物の怖さを追求した演出に、
絶叫者多数！このほか、チャ
リティーバザーも実施。



おめでとう！ 輝く小松大生

第40回 第2種ME技術実力検定試験 臨床工学科 1年生の3人が合格！



写真右から

・稲葉 悠斗さん
・牧野 美奈さん
・小鮫 友美さん

同検定は、医療機器を扱うすべての人が持つべき基礎知識と安全技術に関する実力検定試験で、臨床工学技士を目指す人にとっては、国家試験前の実力把握の機会と位置付けられています。出題範囲の大半がまだ授業で習っていない時期の受験にもかかわらず3人が合格しました。

江蘇杯中国語スピーチコンテスト 国際文化交流学科 1年生の3人が一等賞に！



写真右から

・溝邊 幹太さん
・高橋 優大さん
・大森帆乃香さん

12月15日（土）に愛知大学で開催された同コンテストの大学の部（初級班）の決勝に国際文化交流学科の3人が進み、課題文の朗読を通じて、発音の正確さや表現力が競われました。高橋さんは1位であることを示す中華人民共和国駐名古屋総領事賞も受賞しました。

★公立小松大学を支える会が発足

9/29
(土)

9月29日（土）、本学の教育・研究・社会貢献活動への支援・協力に向け、地域の企業や医療・福祉関係、民間団体等による「公立小松大学を支える会」が発足し、会長には、特定医療法人社団勝木会 理事長の勝木保夫さんが選ばれました。

10月28日（日）には第1回総会が開催され、今後、インターシップや高大連携事業、市民向けシンポジウムの開催協力などの活動が進められます。

★学生パワーでまちを元気に 「どんどんまつり」に参加

10/13
(土)・14
(日)

「どんどんまつり」は、小松で盛んだった太鼓の響きにのせて、どんどん集まろう、どんどん産業や文化を発展させようという意味が込められ、毎年多くの人でにぎわうイベントです。



10月13日（土）は、学生・教職員約70人が「あんどん行列」に参加。あんどんは各学科の学生実行委員が学科の特長などを盛り込み個性豊かにデザインしたものが完成し、この日初めてのお披露目となりました。学生たちは、揃いののはっぴ姿であんどんを曳き、行列後は小松駅前で行われた輪踊りに加わりました。

翌14日（日）は、青松祭実行委員会が大学祭PRブースを出展し、また、歌舞伎市では、こまつ活性化サークルが「ポーの塩焼きそば」の販売を行いました。多くの学生が、地域の方々との交流を深めた2日間でした。



★建国科技大学(台湾)と 大学間交流協定を締結

12/4
(火)

12月4日（火）、台湾の彰化市長や建国科技大学の江金山総執行長ら一行が本学を訪れ、大学間交流協定の調印式を行いました。建国科技大学とは、小松短期大学が平成26年に大学間交流協定を締結し、留学生の受け入れ、学生の派遣を実施してきた実績があります。これまでの交流を引き継ぎ、学生の交換留学、短期語学研修への派遣、共同研究などにより、更なる友好関係を築いていきます。



★保護者懇談会・ 保護者会総会

8/5
(日)

8月5日（日）、中央キャンパスで保護者懇談会を開催し、授業や学生生活に関する質疑応答やキャンパス見学などを実施しました。保護者懇談会に引き続いて行われた第1回保護者会総会では、規約および役員案（以下のとおり）が、満場一致で採択・承認されました。

会長 阿戸健一郎 副会長 大御千枝子、北村啓
監事 尾上恵美、大貝英利
顧問 山本博(学長)、横川善正(副学長)、木村繁男(副学長)

★アフリカから JICA 研修生が本学を視察

9/7
(金)

ナイジェリアやスーダンなどアフリカ9か国からのJICA（国際協力機構）研修生12名が本学を訪れました。職業訓練の指導などに携わっている研修生たちは、本学が社会人の学び直しの機会として実施している「ものづくり人材スキルアッププログラム」の修了生3人と懇談し、アフリカにおける人材育成の現状や



問題点、社会人の学び直しの意義などについて熱心に意見交換を行いました。

公立小松大学 TOPICS

2018年8月～12月

★全国各地から高校生が来場 オープンキャンパス

8/4
(土)・9/15
(土)

8月4日（土）、9月15日（土）の2回にわたり、高校生向けのオープンキャンパスを開催しました。

大学紹介や模擬講義のほか、学生による交流コーナー、パワーポイントを用いた大学生活やサークル紹介などを通して、学生自ら高校生や保護者に本学の魅力を伝えました。



学生による授業成果の発表（看護学科）

★地域連携推進センター事業

第1回シーズ・ニーズマッチングシンポジウムを開催

9/29
(土)

研究シーズとは、種（Seeds）、つまり将来大きく実を結ぶ可能性の高い研究を指します。本学の研究シーズを地域に広く公開し、地域のニーズとのマッチングや地域の課題解決への協働の推進を目指し、9月29日（土）、中央キャンパスで「第1回 公立小松大学シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」を開催しました。



マッチングシンポジウムの開催とあわせ、研究シーズ集・研究者要覧2018-2020が完成しました。

地元企業や団体などから約70人が参加し、4つの分科会に分かれ、教員のシーズ発表や参加企業のニーズ紹介などを行いました。また、分科会後の懇親会でも活発な意見交換が続き、今後の地域連携の発展を予感させる機会となりました。

分科会1 ものづくりの地域貢献に向けて（生産システム科学科）
分科会2 臨床看護研究力アップへの貢献（看護学科）
分科会3 保健医療ものづくり（臨床工学科）
分科会4 地域・観光・食料（国際文化交流学科）



さとう だいすけ
佐藤 大介准教授
(保健医療学部看護学科)

Daisuke Sato

遠隔システムで 新しい時代の看護へ

そもそもなぜ看護師になったのかをよく聞かれますが、高校生の時に祖父が胃がん入院し、その時の担当が男性看護師だったことがきっかけです。もともと、理学療法士を目指していましたが、メンタルや日常生活の支援など、患者さんに寄り添い、そばで支える看護師の業務に興味を持ち、看護の道に進みました。大学卒業後に宮城県立がんセンターで泌尿器科に配属になり4年間臨床の現場で働きまし

た。病棟では男性看護師は自分1人だったので、自然と前立腺がんの患者さんの相談にのる機会も多く、その時に、手術後の機能障害に悩みを持つ人たちの退院後に外来治療で療養する人たちのケアに看護の立場でもっと介入できないか、と思うようになりました。

現在、在院日数の短縮化と医療技術の進歩に伴い、高度な治療が外来で行われるようになり、在宅療養の中でいかにQOL(生活の質)を高めていくかが重要になっていきます。私が進めている遠隔看護システムの研究では、

タブレットを使用して、がん手術後に機能障害改善に向けリハビリ中の人、外来診療で化学療法を受けている人などの状態を毎日簡単な質問や血圧などの数値でモニタリングするシステムを開発しています。このモニタリングの良さは、患者さんが自身の状態を分析された数値などで客観視でき、リハビリや積極的な療養行動につながる動機付けとなる点にあります。自宅ではリハビリが続かなかったり、症状に関する悩みを誰にも相談できなかったりしますが、遠隔



遠隔看護システムの概念図

看護システムによって、副作用や症状に向き合いながら自ら生活をコントロールし、症状の緩和やQOLを高めていくことができますと期待されています。また、遠隔看護のシステムにはもう一つ大きな可能性があります。システムが実用化された場合、病院勤務の看護師がそのモニタリングを行うのは業務量の面からも難しい。そこで、遠隔看護専門の看護師として、育児や介護などの理由で看護師を辞めてしまった人たちに在宅でも可能な看護の仕事を創出できるのではないかと考えています。

学生へのエール

看護師として働いて気づいたことですが、患者さんの方が看護師や医師のことをよく見ているものです。患者さんに信頼される看護師になるには、目の前のことだけでなく周囲の環境や状況に気を配ることができるよ

私の休日

スポーツが好きで、趣味の1つがロードバイクです。宮城県出身なので、東日本大震災復興の願いを込めて開催されている「ツール・ド・東北」にもこれまで2回参加し、150キロを完走しました。



うになること。そのためには、学生時代から色々な価値観に触れて、多様性を身につけることが大事だと思います。授業だけでなく、サークル活動やアルバイトなど、人とのコミュニケーションの中で感受性を磨いていってください。

内側から見た 世界遺産・アンコール遺跡

国際文化交流学科 土橋 香乃



約2週間、カンボジアでのインターンシップに参加できたことは、私の中でかけがえない経験になりました。平日の業務では主に伝統建築の維持管理に携わり、カンボジアの伝統的な住居は住むという目的だけでなく、観光資源としても大切な役割を担っているということを学びました。また、気候に合わせた古くから伝わる伝統住居と、エアコンの設置された近代的な住居との間にある課題も見えてきました。一方で、アンコール遺跡に実際に足を運ぶことで、世界遺産が抱える観光地としての問題も、痛感しました。

公団の方々や現地の村の人、子供たちと交流することで、日本との違いやカンボジアならではの良さなどをしみじみと感じました。楽しくもあり、実りある体験になりました。

心も温かい国カンボジア

看護学科 横井 菜美

私は西バライという大きなプールのような貯水池について学びました。西バライは11世紀というはるか昔に作られて、お寺の保持や灌漑用水、住民への水の供給や洪水の制御など現地の人々にとってとても重要な役割を果たしています。西バライを作った当時の人々の工夫点や、その知恵を少しでも受け継いで行こうと努力している人々の心に感動しました。また、村の子供たちがうれしそうに目を輝かせながら近づいてくれた事が印象に残っています。村人全員が温かい心で育てているからであるのだと地域コミュニティのつながりを強く感じました。公用語はクメール語なので村の方とは会話することが難しかったのですが、お互いが身振り手振りをういて意思疎通を図ろうとする事がとても楽しかったです。



カンボジア アンコール遺跡整備公団 インターンシップ派遣報告

平成30年8月18日～9月2日、金沢大学と共同で実施した海外インターンシップに、学内選考で選ばれた4人の学生を派遣しました。学生らは、遺跡の維持・洪水対策などのために重要な貯水池の水管理や、伝統建築の維持管理、人口問題への対策、観光地化が抱える課題などに取り組みました。

※本事業は、在カンボジア日本国大使館から「日カンボジア友好65周年記念事業」に認定されました。



意味のある 支援とは

国際文化交流学科
肥田 望来



本インターンシップには、途上国の現状を自分の目で見て感じたいと思い参加を決意しました。現地では世界遺産公園エリア内の人口増加問題への対処として建設されたルンタエク村を拠点に活動をし、民家や小学校、児童養護施設やトンレサップ湖などアンコール遺跡群だけでなく、それを取り巻く様々な環境を視察することが出来ました。活動を通して地域住民と交流することで、カンボジアの教育レベルの高さに驚くとともに、私たちが途上国に対して持つ間違った理解が子どもたちから勉強をする機会を奪っていると感じました。

支援とは目の前の物乞いをする子どもに安易にお金を与えることではなく、彼らと深く関わり背景を理解することで初めて意味のあるものになるのだと再確認することが出来ました。

学びと発見

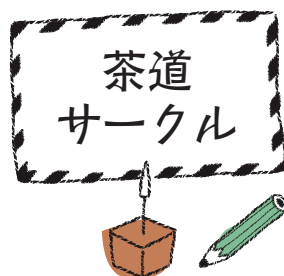
国際文化交流学科 大御 悠瑠花

私は、公団の仕事の中でも特に水管理に従事しました。王朝時代に造られたバライ(貯水池)と水の供給システムは、遺跡や住民の生活に大きな役割を担っています。造られたバライを見ると、古代の人の偉大さを感じると共に、今後も守っていく必要があると感じました。今後は、観光にどのように生かしていくか工夫していく必要があります。公団の人とは、観光客にバライの工夫された設計や歴史、神話なども伝えられると良いという話をしました。カンボジアでの生活は、目にするもの全てが新しいものでした。特に、人々の温かい雰囲気や、生き生きとした様子が印象に残っています。毎日を楽しんでいる様子で、日本には無いものがあると感じました。楽しい仲間と、たくさんの学びと発見のある2週間でした。





サークル Pick Up



小人数ながら、集まると楽しそうな笑い声が絶えない茶道サークルの皆さん。代表の神田萌香さん（臨床工学科）に話を聞きました。

どんな活動をしていますか？

メンバーは5人、看護学科の内田美保先生に顧問をお願いしています。町家ハウス RYUSUKE の和室を借りて、月2回活動しています。

サークル活動で心掛けていることは？

茶道経験者も未経験者も一緒に始めたサークルなので、「みんなで楽しみながら」を大切にしながら、裏千家流の基本を、少しずつ学んでいます。覚える



ことが多く大変ですが、おいしいお菓子とお茶がみんなのやる気の源です。



休憩時間はおしゃべりが尽きませんが、稽古の間は真剣そのもの。

サークルとしての目標は？

第1回青松祭では、料理サークルと合同で豚汁を出店しましたが、次回はぜひ自分たちでお茶席をやってみたい！今は女子のメンバーですが、男子の入会も大歓迎です。

小松は、加賀前田家三代利常公が小松城隠居後に仙叟宗室（後の裏千家始祖）を召し抱え、茶の湯文化の保護・奨励に努めた歴史があり、茶道が盛んな地です。小松に根付く茶の湯文化に触れ、活動の幅が今後ますます広がることを期待します！

基金への寄附のご案内

本学では「公立小松大学基金」を創設し、学生修学、教育研究、地域貢献、国際交流、キャンパス環境整備等に係る事業を支援し、より一層の充実を図り、人材育成と社会への貢献及び学術・文化の発展に資することを目指しています。ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

▶ご寄附の方法

【所定の振込用紙からの寄附】

- ・全国の金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局を除く）の窓口で。
- ・北國銀行窓口でのお振込みの場合、手数料は無料です。

【事務局での寄附（現金）】

- ・栗津キャンパス 1 階事務局へお越しください。

▶税法上の優遇措置

個人からの寄附、法人からの寄附、いずれも税法上の優遇措置を受けることができます。詳しくは、本学ウェブサイトでご確認ください。

問い合わせ 財務課 ☎ 0761-41-6700

2019年2月～9月

スケジュール

2月11日（月）～4月5日（金）

春季休業

4月2日（火）

入学宣誓式

4月8日（月）

前期授業開始

7月13日（土）

オープンキャンパス

7月31日（水）～8月9日（金）

前期試験（補講・試験予備日含む）

8月13日（火）～9月30日（月）

夏季休業

10月1日（火）

後期授業開始